

群 教 セ	G14 - 02
	平 17.228集

見通しをもち、主体的に対象にかかわる 総合的な学習の時間の指導

- 学習へのイメージがもてる学習シートを用いた意見交流を通して -

特別研修員 山口 敏行 (高崎市立倉賀野中学校)

《研究の概要》

本研究は、活動の進め方について明確な観点を示した学習シートを活用しながら、過程ごとに意見交流の場を設定することにより、学習の方向性を見極め、より積極的に自らの意思で対象にかかわることができるようにしたものである。具体的には、生徒が一連の学習活動をイメージできる観点の提示、他の意見に学び、自己の見解を見直せるような意見交流の場の設定をすることで、見通しをもち、主体的に学習対象にかかわる生徒の育成を目指したものである。

キーワード 【総合的な学習の時間 - 中 見通し 主体的 学習シート 意見交流】

主題設定の理由

「生きる力」をはぐくむ中核となる総合的な学習の時間（以下、総合的な学習）は、生徒が自己の生き方を考えることを基底にし、そのために必要な問題解決の資質や能力、学び方やものの考え方、主体的・創造的な探究の態度を育成することをねらっている。本校では、3年間を通して学び方も含め総合的な学習で培うべき資質・能力を育成していくこととし、そのベースとして生徒一人一人の意欲・態度面の育成を重視している。

本校1学年の生徒は、日頃の授業の様子を見る限り、与えられた課題を処理する作業や発言は活発にできるが、自ら進んで課題を見付け解決しようとする意欲に弱さを感じる。小学校における総合的な学習についてのアンケート結果からも、自分でテーマを決めて調べる学習に苦手意識をもっている者が全体の90%。その内訳はテーマ決めが31.1%、どんなことを調べるか（追究）24.3%、何を使って調べるか（手段）9.5%、調べたことから分かること（考察）13.5%であった。特にテーマ設定、追究の仕方について、苦手意識が強い傾向が読み取れる。その原因として、問題解決に見通しがもてず、何をどのように進めていけばよいのかが分からないのではないかと考えた。

そこで、課題設定・追究・まとめといった各学習活動において進め方の観点（指針や判断基準に相当するもの）を示し、生徒一人一人が見通しを

もち、学習対象に主体的にかかわれる学習シートの工夫を考えた。学習シートは、学習過程に沿って複数の種類を作成し、共通の視点として、明確な学習の観点や目指す姿（ねらい）を提示することで、生徒自身が「何を・どこまで」やればよいのかという学習へのイメージがはっきりし、より意欲的な学習ができると考える。そして、学習シートをもとに、他との意見交流の場を設けることで、自分の見解を客観視でき、必要な修正・改善を行った上で、より自信をもって活動にのぞめると考える。

まず、テーマ設定の場面では、学習シートに提示したテーマ設定の観点にそって、テーマ検討会を実施し、他の意見を取り入れ改善を図りながら、より客観的で適切なテーマ設定ができるようにしたい。

次に、追究の場面では、学習シートに提示した調査計画立案の観点にそって、調査計画検討会を実施し、調査の手順や内容、情報収集の方法を多面的に検討することを通して、事前調査及び現地調査への見通しをもつことで、追究活動への不安を減らし、活動意欲を高めたい。

まとめの場面では、学習シートに提示した考察の観点にそって、課題（テーマ）に対する自分なりの解決策をもてるようにするとともに、パネルディスカッションを通して多角的な意見交換を行い、問題解決に向けに主体的にかかわろうとする態度の育成を図りたい。

以上のことから、場面ごとに、問題解決の進め方のヒントとなる観点を示した学習シートを活用しながら意見交流の場を設けていくことで、生徒が見通しをもちながら、主体的に学習対象にかかわることができることを考え、本主題を設定した。

研究のねらい

総合的な学習の指導において、問題解決の内容や方法をイメージ化するために、観点を示した「学習シート」の活用と意見交流の場を設定することで、見通しをもち、主体的に対象にかかわることができることを実践を通して明らかにする。

研究の見通し

- 1 テーマ設定の場面では、テーマ設定の観点を示した学習シートを用いて、「テーマ検討会」を行うことで、より客観的で適切なテーマ設定ができるであろう。
- 2 追究の場面では、調査計画立案の観点を示した学習シートを用いて、「調査計画検討会」を行うことで、追究活動への見通しがもて、追究への意欲が高まるであろう。
- 3 まとめの場面では、考察の観点を示した学習シートを用いて、「パネルディスカッション」を行うことで、課題解決に向けて主体的に対象にかかわる態度が育つであろう。

研究の内容と方法

1 研究の内容

(1) 見通しをもち、主体的に対象にかかわるとは学習者にとって「見通しをもつ」とは、学習課題や活動の方法、成果として目指す姿、つまり、対象に対して「何のために、何を、どこまでやるのか」が明確になっていることである。また「主体的に対象にかかわる」とは、様々な場面で自己決定をし、自分の意思で学習活動を進めていくことと考える。したがって、問題解決を進める上で、何をどこまでやるのか、ゴールの見えない暗中模索状態では主体的に学ぼうとする意欲を高めづらい。見通しをもち、やり方やゴール地点が見えてくることで、学習に対する主体性が生まれるので

はないかと考える。

(2) 学習シートの活用及び意見交流について

学習シートは、学習過程を3つにわけ、それぞれに作成する。学習テーマ(調査対象)が生徒によって異なるため、全員に共通する観点を提示する。シートの前半部に観点を示し、後半部に目指す姿を自己評価項目として具体化することで、学習を見通すことができるようにするとともに、活動後の自己評価ができるようにする。

また、観点にそって打ち出した自己の見解を発表し合い、討論し合う、意見交流の場をもつことで、多様な見方・考え方に気付くことができる。さらにそこでの比較・検討によって、自己の見解を客観視することができれば、具体的な学習のイメージをもて、学習活動への意欲喚起につながると考える。

テーマ設定の場面では、「テーマ設定の観点」として、重要性、緊急性、可能性の3つを学習シート1で提示し、ウェブマップをつくりながら、まず個々にテーマを設定する。その後、ほかの意見を取り入れ改善を図る意見交流の場として、学級「テーマ検討会」を実施し、修正・検討を加えることで、テーマに妥当性・客観性が生まれ、各自が学習へのイメージを具体化できると考える。

追究の場面では、「調査計画作成の観点」として、調査の手順(調査計画作成、事前調査、検討会、現地調査)、調査の内容(問題の現状、関係者、現在までの過程、今後の展望)、調査の方法(情報メディアの紹介、活用法)を学習シート2に提示することで、調査計画の作成を支援する。その後、班単位で「計画検討会」を実施し、調査の焦点を絞り、調査項目や方法について明確にすることで、学習活動に見通しをもてるようにし、追究活動への意欲を高める。

まとめの場面では、「考察の観点」として、改善すべき問題はどこにあるか、どんな改善策が考えられるか、社会的に見てどの策が適当かの3つを学習シート3に提示し、調査結果から明らかになった問題点を整理しながら、自分なりの「改善提案」をてるようにする。そして意見交流の場として、班ごとの代表者をパネラーとした「パネルディスカッション」を行い、多角的な意見に触れることを通して、自己や班の提案を客観的な視点で振り返るとともに、具体的な実践を含め、主体的に対象にかかわろうとする態度の育成を図

れると考える。

2 研究の方法

(1)授業実践計画

対象	高崎市立倉賀野中学校 1年 121名(男子64名 女子57名)		
期間	平成17年9月～12月(22時間)	単元名	ふれあい「高崎」
抽出生徒	抽出生徒A 何事も前向きに努力しようとする意欲があるが、作業の視点がずれていることが多い。意見交流の場を通して、建設的な討論を体験し、より客観的な視野をもてるようにしたい。 抽出生徒B 発問や指示を与えても、自信がないのか作業に入ることができない。ワークシートへの取りかかりも、ほかの生徒に比して遅れる傾向がある。学習シートの学習の観点を工夫し、「できる」自信をもたせたい。		

(2)検証計画

検証計画	検証の観点	検証方法
見通し1	テーマ設定の場面において、テーマ設定の観点を示した学習シートを活用しながら、「テーマ検討会」を実施して意見交流をすることは、自己の課題を明確にし、より客観的で適切なテーマを設定するために有効であったか。	・学習シート1への記述状況 ・行動観察
見通し2	追究の場面において、調査計画作成の観点(調査手順・調査内容・調査方法を明確にする)を示した学習シートを活用しながら、「調査計画検討会」を実施して意見交流をすることは、追究の方法や進め方の見通しがもて、追究への意欲を高めるために有効であったか。	・学習シート2への記述状況 ・行動観察
見通し3	まとめの場面において、考察の観点を示した学習シートを活用しながら、改善提案を主旨とした「パネルディスカッション」を実施して意見交流をすることは、課題解決への方向性を見だし、主体的に対象にかかわる態度を育てるために有効であったか。	・学習シート3への記述状況 ・行動観察

研究の展開

- 1 単元名 ふれあい「高崎」 ～人とのふれあいを通して、郷土「高崎」について理解を深めよう～
- 2 単元の考察

本単元は、本校の総合的な学習の学習領域「地域」に基づいて設定した。ここでは、生徒が郷土高崎の歴史、文化、環境、産業などの特色、それらを支える人々の存在や取組を知ることを通して、郷土への愛着を深め、よりよい郷土を目指して、意欲的、協力的に取り組もうとする資質や能力を育てることを目指している。実際に地域に出かけ、専門的に携わる人々とのふれあいを通して学ぶことは、地域社会の一員としての自覚をもたせ、地域の抱える特色や問題点を肌で感じ、自分たちの生活や文化を守り、発展させていくための方法を考えていくのに有効であると考えた。

3 単元の目標及び評価規準

目標	地域のもつ様々な特色や問題点について、当地の専門的な視野をもつ人にふれあいながら調査活動を進めることを通して、より身近な問題として考えようとする態度を身に付けるとともに、郷土高崎に愛着をもち、地域社会の一員としてよりよい生活の実現に意欲的、協力的に取り組もうとする資質や能力を育てる。
評	よりよい郷土「高崎」を創造するために、意欲的・協力的に調査や討論にかかわっている。地域の問題に対して自らのできることを模索し、実践しようとしている。

価	妥当性のあるテーマや調査計画の設定ができ、得られた情報から自己の課題に対する改善策を考 ることができる。
規	情報メディアや、地域の専門家を適切に活用しながら、調査活動を進めることができる。 郷土を支える人々の思いや願いを知り、「高崎」の現状について、正しい知識をもつ。
準	〔 関心・意欲・態度、 思考・判断、 技能・表現、 知識・理解 〕

4 指導と評価の計画(全22時間予定)

【評価規準】 関心・意欲・態度 思考・判断 技能・表現 知識・理解

週	時	学 習 活 動	支援及び指導上の留意点	具体的評価規準	評価方法
つ	1	1 テーマ設定(4時間) ・学級で「高崎市の問題点」をウェブマップにまとめる。 ・自分が問題と考える要素を調査テーマとして設定し、設定理由を明確にする。	・教師が司会をしながら、フリートークの形で意見を出し、黒板にウェブマップを作成する。 ・「テーマ設定の観点」は、 問題の重要性、問題の緊急性、調査の可能性 ・観点はすべて学習シートの前半に提示する。	・ウェブマップづくりに積極的に取り組んでいる。 ・設定理由を明確にしたテーマ設定ができる。	行動観察 学習シート1
	2	・学習班で、各自のテーマと設定理由について、検討会を行う。 ・自己のテーマに変更・修正を加えて、テーマを決定する。 ・自己評価をする。	・同一テーマをもつ者が重ならない班組みをする。 ・友人や教師の助言は、学習シートの記録欄に記録することを確認する。 ・自己評価の時に分かりやすいよう、修正部分については、色を変えて書き込むことを確認する。	・検討会に積極的に参加している。 ・他人の意見を生かしたテーマ設定ができる。	行動観察 学習シート1
追	1	2 調査活動(11時間) ・類似テーマごとに調査グループをつくり、調査計画を立てる。 (例)伝統文化グループ 『高崎だるま調査班』	・類似テーマごとに、歴史、伝統、文化、行事、生活、政治・経済、環境、産業などの「調査グループ」を作り、調査対象物が同一、又は近い者同士でさらに小グループ(班)をつくる。	・意欲的に調査活動に取り組んでいる。	行動観察
	2	・班に分かれ、調査計画を立てる。 A. 何を調査対象とするか。 B. どのようなことを調べるか。 C. どのような方法で調べるか。 ・調査計画検討会を行い、計画の検討・修正をする。	・調査計画立案の観点は、 調査の手順、調査の内容、調査の方法。 ・検討の視点は、ア問題の規模が分かる、イ問題の内容が分かる、ウ反対立場の意見も調べている、エ調査方法が適切、オ調査が可能、に留意しながら進めるよう助言する。	・検討会に積極的に参加している。 ・見通しをもった調査計画を立てることができる。	行動観察 学習シート2
	4	・調査計画に沿って、班単位で事前調査を行い、分かったことと疑問点を整理する。 2 ・現地調査の計画を立てる。 ・調査グループで進行状況を確認し合い、計画の検討・修正をする。 2 ・現地で、専門家に直接話を聞きながら調査を行う。(ふれあい高崎)	・生徒の動きが多岐にわたるので、副担任教師は担当学級にT2としてかわり、TT形式で指導に当たる。 ・問題解決という視点から、特に因果関係や、賛否両方の立場の見解、現在行われている対策などについて、明確になっているか検討するよう助言する。 ・交通マナー、現地での対応について事前指導を行う。(多数が訪問する場所には、担当職員が出向く)	・適切な調査方法で情報を得ることができる。 ・情報を整理し、現地調査計画を立てることができる。 ・専門家を活用し、必要な情報を得られる。	行動観察 学習シート2 学習シート2
ま	2	3 まとめ(7時間) ・課題に対する考察を行い、課題(テーマ)に対する改善提案をまとめる。 ・個々でまとめた後、班内で評価を行い、必要なら補充調査を行う。 3 ・パネルディスカッション用のプレゼンテーション資料を作成する。	・考察の観点は、 改善すべき問題はどこにあるか、どんな解決策が考えられるか、社会的に見てどの策が適当か、 (実行できそうか) ・情報が不足していれば、補充調査をするが、授業時間外に個別で指導する。 ・A4サイズで1~2枚の資料とし、レポート形式で冊子にまとめ、手で読める形式にする。	・調査結果を踏まえ、問題点に対して改善提案ができる。	学習シート3
	2	・パネルディスカッションを行う。 班の代表者による発表を行う。 発表後、質疑応答の時間を取り、討論をする。 最後に感想を書き、ワークシートを提出する。 ・自己評価を行い、次年度の学習への課題を整理する。	・学習シートは、A賛成できる意見、イ疑問を感じた意見と自分の見解、ウディスカッションを通しての感想、について書き込めるものとする。 ・各班が提案した改善策の妥当性を議論し、最後に「自分たちにもできること」という視点でまとめる。 ・今年度の学習が、次年度の「ふれあい群馬」に生かせるよう、a本年度の学習の反省、b次年度にそれをどう生かすか、c次年度はどんな学習テーマを掲げて調査してみたいか、の3観点を学習シートの自己評価欄に設ける。	・意欲的に討論にかかわることができる。 ・多面的な見方で、問題解決への意見をもつことができる。 ・次年度に向けた、自己の課題をもつことができる。	学習シート3 行動観察 学習シート3 学習シート3

研究の結果と考察

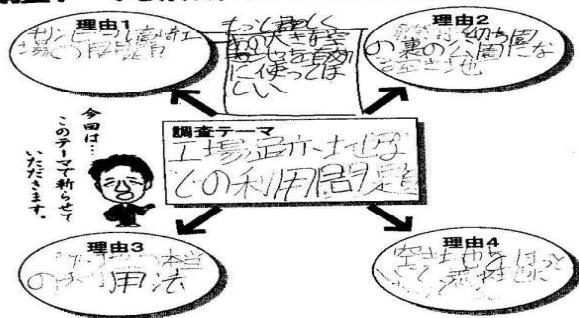
- 1 テーマ設定の場面において、テーマ設定の観点を示した学習シートを活用しながら、「テーマ検討会」を実施して意見交流をしたことは、自己の課題を明確にし、より客観的で適切なテーマを設定するために有効であったか

学習シートに、テーマ設定の観点として、(1)重要性(どうしても考えなければならない問題なのか)、(2)緊急性(今すぐに考えなければならない問題なのか)(3)可能性(調査や改善ができそうな問題なのか)をあげ、自己の調査課題をテーマとして設定した。シートには、テーマとともに設定理由を書く欄を4つ用意した。そして、異なるテーマを設定した4人で学習班を組み、上記の3観点を論点として「テーマ検討会」を行った。

A男は、「(工場や競馬場が撤退した後の)跡地問題」を調査テーマに設定し、設定理由としてビール工場の跡地が問題だから、幼稚園裏の空地が問題だから、市としての空地の利用計画が知りたいから、放っておかれて荒地になっているから、の4つをあげた。高崎市のHP上でも市民の声欄にビール工場跡地問題についての記事は複数掲載されており、しかもそれが学校区内にあるのである。「あのビール工場の跡地は問題だよな。重要だよな。」と学習シートを指さしながら近くの生徒に同意を求めていたので、重要性という観点で選んだようだ。しかし検討会の中で、班員から「自分で問題だというだけでは、重要性が感じられない」と指摘されたため、理由を削除し、「親や親戚が『あれだけ大きい(跡地だ)から、早く(利用方法を)決めて欲しい』といつも言っているから」と改めた。親という身近では

資料1 A男のテーマ

調査テーマを決め、それに決めた理由を書き出す



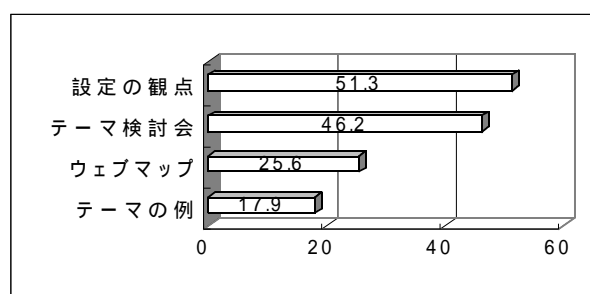
あるが、大人の意見を取り入れることで、この問

題が自分の見解だけでないことを裏付け、より客観化しようとした姿がうかがえる(資料1)。

B男は、「小さい子の遊び場がない」ことをテーマにし、小さい子どもが遊べないから、中学生や大人が遊んでいて幼児が安心して遊べないから、犯罪が増えているから、と3つの設定理由をあげることができた。なぜ小さい子の遊び場なのか、と理由を尋ねると、保育園児の妹がいて祖母がよく愚痴をこぼしているらしく、彼の中では緊急を要する課題だと分かった。しかし、検討会で「公園は結構あるんじゃない?」「別に中学生や大人も遊んでいいわけだから解決しないと思う」「例えばどういう犯罪とか書いた方がいい」など助言され、テーマを「小さい子が安心して遊べる場所が少ない」と修正し、設定理由を公園でエアガンを撃ったり、小・中学生が遊具で遊んでいてとても危険だから、近所の公園の遊具はさびていて危ないから、隣町で小学生が斬りつけられる事件があったから、と修正した。テーマの客観性、理由の具体性という両面から見て、B男にとって検討会はかなり有効であったことが見て取れるが、理由相互に関連性がないため、調査に入る段階で「何から調べるか」が難しくなると思われる。

全体的には、検討会を経て設定理由が追加された者は7.5%であったが、テーマや設定理由に修正の加えられた者を合わせると75%もいた。さらに「テーマ設定活動の有効要素」についてのアンケート結果(資料2)を見ても、「テーマ検討会」や「ウェブマップづくり」が高い値を示していることから、ほかの意見を取り入れたことは、自分なりの理由づけから、より客観性・妥当性のある適切なテーマ設定に有効であったことがうかがえる。また「設定の観点」「テーマ例」を明示することを中心に作成した学習シートは高い割合でテーマ設定をサポートできたと言えるだろう。

資料2 テーマ設定(学習シート1)の有効要素



2 追究の場面において、調査計画作成の観点を示した学習シートを活用しながら「調査計画検討会」を実施して意見交流したことは、追究の方法や進め方の見通しをもたせ、追究への意欲を高めるために有効であったか

テーマ設定を終え、類似テーマをもつ者で班を編成し調査を進めることにした。学習シートに「調査計画立案の観点」として、調査手順、調査内容、調査方法の3つを示し、まず各自で立案した。次時に、自分の計画をもとに「計画検討会」を班ごとに実施し、自分の案の修正を図るとともに、班としての調査計画を立てた。

A男は「跡地問題調査班」に所属し、調査計画を次のようにまとめた(資料3)。

資料3 A男の調査計画

調査内容 どんなことを調べるか?	調査方法 何を使って?
① 跡地での場所	→ 本
② 跡地での利用方法	→ インターネット
③ 得た情報を元に現地調査	→ 調査
④ 市役所に直接質問	→ インタビュー
⑤ 都市計画に協力した住民にインタビュー	→ インタビュー
⑥ 本に足りない情報を調査	→ 本、インターネット
⑦ 已善点を出す	→
⑧ まよ	→

調査内容(どんなことを調べるか)に書かれている事柄を見ると、から後に視点のずれが出てしまい、内容を記述するはずが、手順の記述になっていることが分かる。方法についても、「本」「調査」と具体化されていない。A男も、テーマ設定時の自信がないらしく、首をひねりながら書き込んでいた。A男に「とは調べられるよね。例えばは?」と問うてみると、ハッとした顔をしてすぐに消したが、訂正は書くことができず、再度同じことを書いていた。検討会では、A男は、「何をでなく、どうに調べるかが書いてある」「左右の欄がごちゃ混ぜになっている」と指摘され、次のように修正が加えられた(資料4)。

資料4 A男の調査計画(検討会後)

調査内容(何を調べるか?)	調査方法
利用されていない跡地がいくつ	・インターネット

くらいあるか。	・統計資料
競馬場跡には何ができるのか。	・インターネット
跡地の活用法はどのようにして計画されていくのか。	・現地調査
現在、どんな計画案が出されているのか。	・インターネット
	・現地調査

項目数は4つに減ったものの、かなり具体的で、調査の見通しがはっきりしたものに修正された。

「もうパソコン室へ行って、調べて来ようよ」と班員をうながし、「ちょっと待って。ほかに調べることがないか、確認して。」と制止されている場面が見え、A男自身も、やることが見えてきたことで調査への意欲がわいてきたと考えられる。

B男は「遊び場問題調査班」に属することになった。事前のアンケートでも「何を調べたらいいのか分からない」と言っており、なぜ建物が増えるのに、遊べる場所は減るのか、どれだけ遊び場が減っているのか、市はどのような対策をとっているのか、の3つを調査項目としてあげるにとどまった(資料5)。

資料5 B男の調査計画

調査内容 どんなことを調べるか?	調査方法 何を使って?
① なぜ建て物が増え遊べる場所が減るのか。	→ インターネット、図書館
② どれだけ遊べる場所が減っているか。	→ 市役所
③ 市はどのような対策をとっているか。	→
④	→
⑤	→
⑥	→

方法についても、市役所や図書館と書いており、具体的な情報メディアがイメージしづらいようであった。検討会では発言をせず、学習シートを見せ合う時とまどっていた。しかし、「遊び場といってもいろいろある」「小さい子どもということで、『公園』に絞った方がいいのでは」「公園などは遊具が古くて危険だよね」という意見をもらえて、次のように修正が加えられた(資料6)。

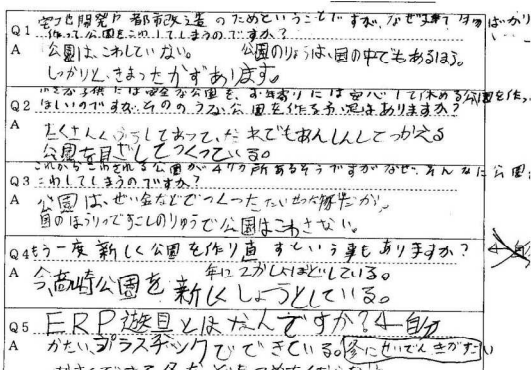
資料6 B男の調査計画(検討会後)

調査内容(何を調べるか?)	調査方法
なぜ公園が減っているのか	・インターネット
これから壊される予定の公園は	・統計資料

どこか	・インターネット
市はどんな対策を取っているか	・現地調査
古くて危険な遊具が多いが、地域の人はどう考えているのか	・インターネット
新しく遊具や公園が作られる予定はあるのか	・現地調査

B男については、調査の視点が増えたこと、より具体的で焦点が絞れたことにより、数値を以て現状を把握することが可能になった。そして、に自分の意見が採用され、調査を任されたことで、市のHP（公園緑地課）を熱心を読みながらメモをとる様子が見られ、現地調査でも同課に出向き、意欲的に調査ができた（資料7）。調査計画検討会での意見交流によって見通しがもてたことと、ほかの仲間から客観的に認められたことによる、不安の解消が効果として大きい。

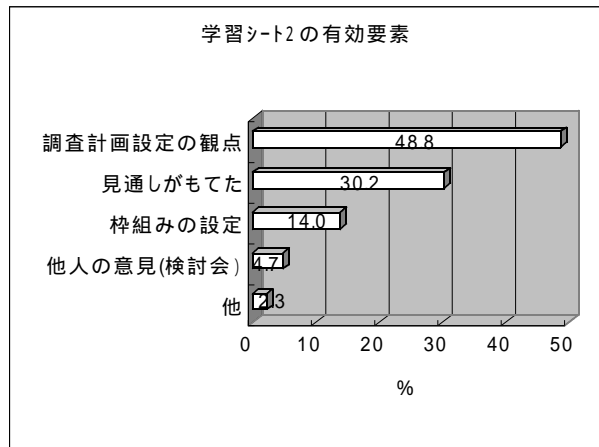
資料7 B男の現地調査メモから



調査活動終了後の自己評価を見ると、「納得のいく調査ができたか」という問には、大変満足が32%、まあ満足が47%、やや不満が25%、大変不満が2%であり、おおむね達成感をもっていることが分かる。調査の見通しがもてている班の中には、休日を使って「自主的に町を歩き、実際に街灯の数を数えてきた。」や「市街の駐車場の許容量と、商店街の路上駐車状況を調べてきた」ところもあり、調査意欲には目を見張るものがあった。調査活動における学習シート2の有効性を問うアンケートでは、特に調査計画設定の観点を示したことの有効性が顕著であり、その効果として、調査活動への見通しがもてたと言えるだろう（資料8）。学級の雰囲気としては、検討会后、顕著に生徒たちの動きが活発化し、調査活動への意欲が喚起された様子が見取れた。グラフには表れていないが、お互いに批評し合う学習に楽しさを見い

だした生徒が現れ、「面白いからまたやろうよ、調査計画検討会。」という意見も複数聞かれた。

資料8 追究活動(学習シート2)の有効要素



3 まとめの場面において、考察の観点を示した学習シートを活用しながら、改善提案を主旨とした「パネルディスカッション」を実施して意見交流をしたことは、課題解決への方向性を見だし、主体的に対象にかかわろうとする態度を育てるのに有効であったか

事前学習、現地調査を経て、得られた情報をもとに、「よりよい高崎市にするには」の改善提案を主旨としたパネルディスカッションを行った。そのためにまず、個々が自分なりの提案を学習シート上に記述し、さらに班でまとめた意見を、代表者がパネラーとしてクラス内で発表した。各班の班長から改善提案が示され、それに対する質疑応答を中心に、「もっとこうした方がよい」「自分たちにできることはないか」といった視点で、聴衆からも意見が出された。発表者以外は、賛成できる意見、できない意見を分類し学習シート3に記入しながら、討論及び感想をまとめる形をとった。

A男は、「跡地問題」に対して、〔原因〕経営上の問題で、工場や競馬場が撤退し、まだその土地の所有権をもっているため、すぐに利用するわけにいかない。

〔結果〕困われて荒れ地になっており、今後どう使われるのか市民は心配している。

〔改善提案〕ビール工場の跡地は、市とビール会社が話し合い、有効な使い方が決まったら売ってくれることになっているので、市議会で早く相談して決めていく。とまとめてディスカッションに

のぞんだ。A男の班に対しては、「工場跡地は校区内にあり大問題だと思うが、どうすれば市議会に届くのか。行動しなければだめなのではないか」「工場の撤退で税金が上がっていると聞いた。デパート誘致の話もあるが、やはり工場が来てくれた方が、税金が取れるのではないか」などの意見が出された。A男の感想には、「みんなよく調べていてすごいと思った。クラスの親にアンケートをとっていた班があり、そんな方法もあるなど感心した。(中略)税金のこととか考えると、跡地の問題は、市民の声を集めることが大事なので、利用方法を考えようと市民によびかけた方がいいと思うし、ぼくたちも市に任せるのでなく、提案をしていくことが大切だと感じた。」と書かれていた。アンケートという市民の声を実際に集めた班の調査視点に共感する姿が見えるとともに、ディスカッションを経て、「自分たちが動かなければ」という主体的な側面が追加されたことが成果として大きい。

また、B男は、「幼児の遊び場問題」に対し、〔原因〕公園の数が減っていたり、公園内で危険な遊びをしている小・中学生などがいる。〔結果〕親がついていても、なかなか安心して幼児を遊ばせることができない。〔改善提案〕つぶされる公園がある一方で、新しく作る計画も練られている。数が少ないというより、その使い方が問題なので、みんながもっと使い方を考えた方がよい。とまとめた。ディスカッションでは、「公園はみんなの遊び場だから、大人や中学生を追い出すわけにはいかない」「仕方ない部分もあるのではないか」「親(大人)がもっと、マナー違反に対して注意するべきだ」「中学生には学校で注意をうながすこともできるのではないか」など、身近な問題であるがゆえに、意見は活発に出されたが、具体的に改善策を明確にすることは難しかった。B男の感想は、「確かに何をしても解決しない問題かもしれない。でも、市役所に行って、子どもたちが安全に公園で遊べるように、地区の老人会が清掃してくれていることを知った。ゴミ班も、収集場所にリサイクルをよびかけるポスターを貼ると言っていたので、公園の使い方をよびかける方法を何か考えていきたいと思った。」と書かれており、消極的なB男が、新しい発見を元に自分のできることを考えようとしている。ディスカッションの意見を聞いて、解決策が限定できず、悲観する姿も見られたが、ゴ

ミ調査班の意見にも刺激されて、「何かできないか」と思慮を巡らしながら、自分の具体的な行動の仕方を打ち出しており、ここでは他班との意見交換が重要であったと考える。

全体的には、感想の中に「自分が動かなければ」や「自分にできること」に触れている生徒が37%、「何とかしなければ」という意識を書いている生徒が65%、「初めて知った驚き」を書いている者が47%(複数回答)であり、「自分たちにできることはないか」をテーマにしたディスカッションが、問題を自分たちのこととしてとらえられたことに加え、主体性を喚起するのに有効に働いた結果が見取れる。

研究のまとめと今後の課題

学習観点の提示により活動に見通しをもたせたり、ほかとの意見交流により自己を客観的に見直す機会を与えたことが、より適切な判断や意欲的な活動につながったことは明らかになった。特に、まとめのディスカッションは、「改善策」という共通の視点をもって臨んだため、ほかの意見が刺激となり、自己の問題としての意識を深化させ、主体的に課題にかかわろうとする態度を育てることにつながったと言える。

学習シートへの記述や行動観察、感想などを中心に変容を追ってきた。今回の学習においては見通しや意思をもつてのぞめたが、真の主体性として定着したかという点は、今後の学習や生活の場面で、その実践を見取り続けていく必要がある。また、発言や積極性といった面では、まだ十分とは言えないし、「調べるのが大変だった」「一人一人の力を集める必要は分かったが、実際には難しいのではないか」という、主体的にかかわろうとする意欲を喚起できなかった生徒も10%程度ある。この学習をステップにして、さらに主体性を育てる支援を継続して行きたい。

参考文献

- 『学校の経営35・36・37』群馬県総合教育センター(2003年・2004年・2005年)
- 『「総合的な学習の授業及び評価に関する開発的研究」研究成果報告書(第二次報告書)』国立教育政策研究所(2004年)
- 高浦勝義『絶対評価とルーブリックの理論と実際』黎明書房(2004年)

